

2017 年 2 月 17 日
在上海日本国総領事館

福島第一原発事故に関する Q & A

- 福島第一原子力発電所の原発事故について正確な情報を知っていただくため、在上海日本国総領事館では、Q & Aを作成しました。
- 本Q & Aが皆様のご理解に役立てば幸いです。

【要点】

- 福島第一原子力発電所の廃炉作業では、現在、使用済燃料の取り出し作業や溶けて固まった燃料（燃料デブリ）の取り出しに向けた調査等が、安全最優先で慎重に進められているところです。
- 格納容器の内部は、鋼鉄製の格納容器の壁、建屋内のコンクリートや鉛板などにより遮へいされており、格納容器内部のガスも管理されています。引き続き安定状態を維持しており、福島第一原子力発電所の敷地境界の放射線量に有意な変動はありません。
- 本年1月26日から2月16日にかけて、2号機において格納容器内部の調査が実施されましたが、この調査による外部への放射線物質の影響はなく、格納容器の内部において、新たな現象が発生したものではありません。
- 調査の開始前から継続して放射線量のモニタリングが実施されていますが、現在も日本の大気中の放射線量は問題のないレベルであり、海外の主要都市と比較してもほぼ同等の水準です。（2月9日又は10日時点で、福島県福島市 0.12、ロンドン 0.11、福島県会津若松市 0.08、北京 0.07、東京 0.03（単位は全て $\mu\text{Sv/h}$ ）

（参考）内部調査の経過等

- ・燃料デブリ取り出しについては、その取り出し工法の研究開発を進めるとともに、原子炉や格納容器の内部状況を出来る限り事前に把握することを最優先の課題として取り組んでいます。
- ・その一環として、本年1月26日から2月16日にかけて、2号機において格納容器内部の調査が実施されました。遠隔操作によりカメラやロボットを原子炉压力容器の近くまで投入し、映像、放射線量、温度等の情報が得られました。今回、原子炉压力容器下にある足場の脱落や堆積物の状況等を初めて直接確認できており、廃炉に向けて着実に前進しています。
- ・調査の過程において、格納容器内部の放射線量を推定し、放射線量が最大で毎時約 650シーベルトとの推定結果を得ましたが、これは実測値ではなく、画像のノイズから放射線量を推定したものであり、誤差も大きいものです。2月16日には、線量計による測定を行い、上記の数値を下回る毎時約 210シーベルトという実測値が得られています。

- 福島第一原子力発電所事故後、放射性物質の影響が確認された地域の農林水産物については、低減対策により放射性物質を吸収しないよう生産を厳格に管理し、出荷前の検査等によって、科学的根拠に基づく基準値を満たすもののみが流通するよう取り組むことにより、日本の食品の安全性を確保しています。仮に検査により基準値超過が確認された場合には、直ちに廃棄等されるため、市場に流通することはありません。
- 事実関係は以上のとおりで、安全が確保されていますので、安心して日本に旅行に来ていただき、また、日本の食品を召し上がってください。

Q 1 毎時数百シーベルトという調査結果を聞くと、日本が安全なのか心配になりますが、実際はどうなのでしょう？ 日本への旅行は延期した方がよいのでしょうか？

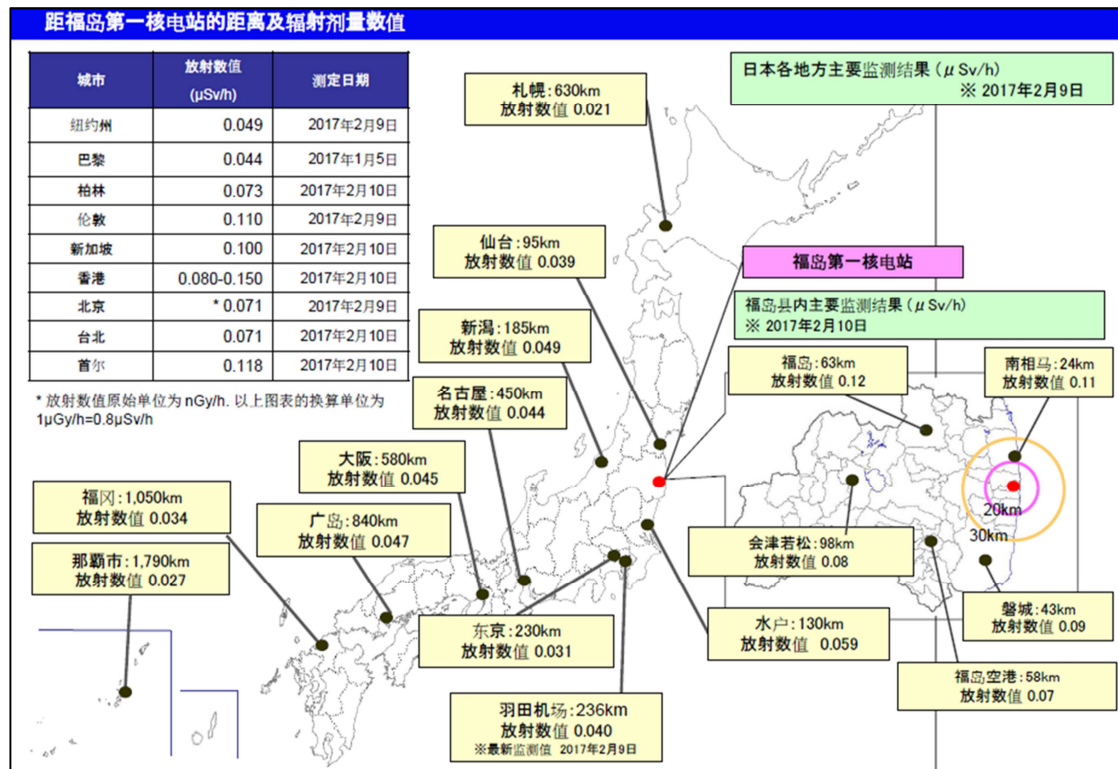
A 1 今回公表された放射線量のデータは、あくまで原子炉格納容器内部の状況を示すものであり、これは新たな現象の発生ではなく原子力発電所の周辺地域や他の離れた地域に影響を及ぼすものではありません。引き続き、原子炉の安定状態は維持されています。

今回の調査の開始前から継続して放射線量のモニタリングが実施されていますが、日本の大気中の放射線量は問題のないレベルであり、海外の主要都市と比較してもほぼ同等の水準です。

【例】

- ・札幌市（北海道）：0.021 μ Sv/h（2017年2月9日）
 - ・東京都：0.03 μ Sv/h（2017年2月9日）
 - ・大阪市（大阪府）：0.045 μ Sv/h（2017年2月9日）
 - ・福岡市（九州・福岡県）：0.034 μ Sv/h（2017年2月9日）
 - ・福島市（福島県）：0.12 μ Sv/h（2017年2月10日）
 - ・会津若松市（福島県）：0.08 μ Sv/h（2017年2月10日）
 - ・ニューヨーク（米国）：0.049 μ Sv/h（2017年2月9日）
 - ・ロンドン（イギリス）：0.11 μ Sv/h（2017年2月9日）
 - ・北京（中国）：0.071 μ Sv/h（1 μ Gy/h=0.8 μ Sv/hで換算）（2017年2月9日）
- ※なお、2011年3月の原発事故後に東京で増加した空間放射線量は、年間で0.05mSvに相当します。これは、人が東京～ニューヨーク間の航空機1往復で浴びる放射線量（0.20mSv）にも満たない数値です。

福島第一原子力発電所に近い避難指示区域を除けば、その他の大部分の日本は放射線の影響はなく安全ですので、安心して旅行に来てください。



(出典) 日本政府観光局「3.11 地震后的日本旅游最新版」

http://www.jnto.go.jp/eq/chs/04_recovery.htm

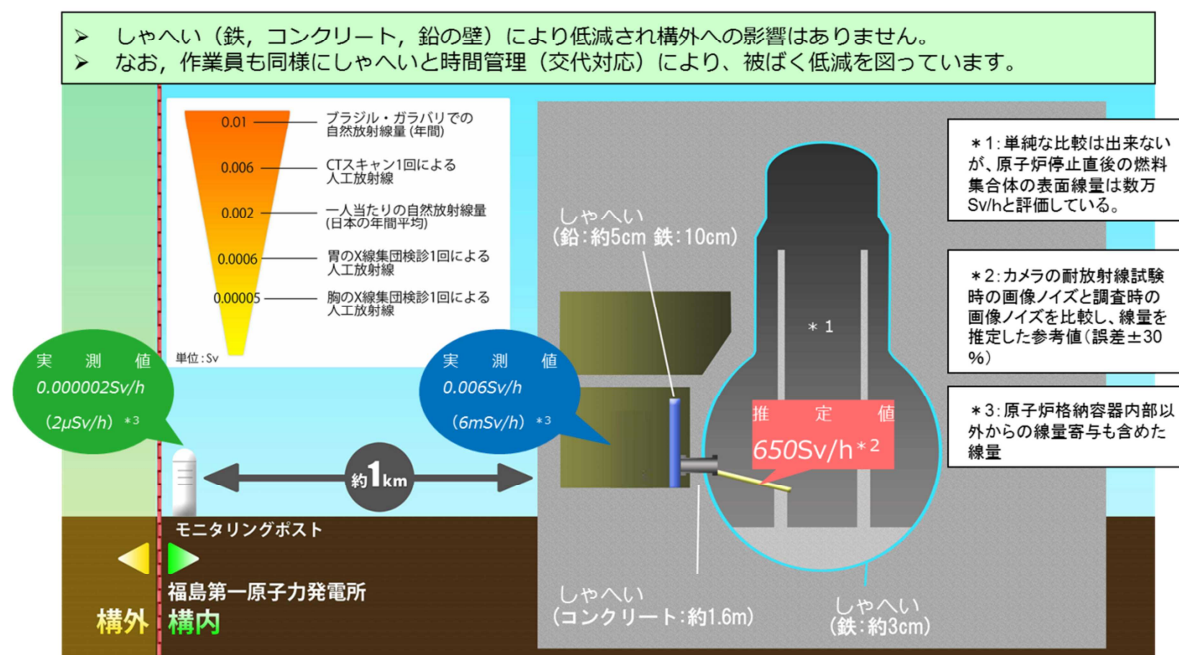
Q 2 本年1月30日、福島第一原子力発電所2号機の原子炉格納容器内部においてカメラを用いた内部調査が実施されたとのことですが、その調査結果はどのようなものでしたか？

A 2 廃炉に向けた作業の一環として、本年1月30日、東京電力ホールディングス株式会社は、福島第一原子力発電所2号機の原子炉格納容器内部においてカメラを用いた内部調査を実施し、制御棒駆動機構交換用レール及びプラットフォームグレーチング（原子炉直下の金網状の足場）上に堆積物を確認した旨を発表しました。

画像分析等の結果、グレーチングの脱落部分を確認するとともに、画像のノイズから、毎時数十～数百シーベルトの放射線量（格納容器内）を推定していますが、この結果は測定手法の性質上、誤差も大きいものです。なお、2月16日には、線量計による測定を行い、毎時約210シーベルトという実測値が得られています。

格納容器の内部は、鋼鉄製の格納容器の壁、建屋内のコンクリートや鉛板等により遮へいされており、格納容器内部のガスも管理されています。福島第一原子力発電所の敷地境界の放射線量に有意な変動はありません。すなわち、今回の調査による外部への放射性物質の影響はなく、格納容器の内部において新たな現象は発生していません。

2号機格納容器内部調査（推定された線量について）



（出典）東京電力ホールディングス株式会社作成資料（2017年2月15日）

【参考】東京電力ホールディングス株式会社による発表

Fukushima Daiichi NPS Prompt Report (Feb 10, 2017)

Recent Topics: TEPCO HOLDINGS SENT ROBOT INTO FUKUSHIMA DAIICHI UNIT 2 REACTOR TO CLEAR PATH FOR LATER INVESTIGATION WITH "SCORPION" ROBOT

http://www.tepco.co.jp/en/press/corp-com/release/2017/1375551_10469.html（英語）

Q3 2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、福島第一原子力発電所において原発事故が発生しましたが、現在の発電所の状況を教えてください。

A3 東北地方太平洋沖地震が発生した当時、福島第一原子力発電所の1号機から6号機のうち、1号機から3号機は原子炉を冷やすことができなくなり、燃料が溶けることで大量の水素が発生し、1号機・3号機の建物と、3号機からつながっていた4号機の建物が水素爆発で壊れました。その後、原子炉を水で冷やす仕組みが作り出され、安全な状態で維持されています。

現在は、廃炉に向けて、使用済燃料や溶けて固まった燃料（燃料デブリ）の取り出し等の作業が安全最優先で慎重に進められています。

Q 4 日本の食品は安全なのでしょうか？

A 4 本年1月30日、原子炉格納容器内の放射線量が530Sv/hと推定されたことは、今まで不明であった状況が確認できただけのことであり、農林水産物の生育環境に影響を与える事実が生じたわけではありません。

福島第一原子力発電所事故後、放射性物質の影響が確認された地域の農林水産物については、低減対策により放射性物質を吸収しないよう生産を厳格に管理し、出荷前の検査等によって、科学的根拠に基づく基準値（注）を満たすもののみが流通するよう取り組むことにより、日本の食品の安全性を確保しています。

実際の検査では、例えば、福島県産の米は、出荷前の全袋検査を義務づけ、年間1000万袋以上を検査しており、2015年産以降は基準値を超過したものはありません。福島県産の野菜、果物、茶、畜産物（肉類、鶏卵、原乳）、海産物も2015年度以降で超過したものはありません。仮に検査により基準値超過が確認された場合には、直ちに廃棄等されるため、市場に流通することはありません。

日本に旅行に行って食べることのできる食品、中国に輸入されている日本の食品は安全ですので、安心して召し上がってください。

（注）食品中の放射性物質の基準値は、食品の国際規格を策定しているコーデックス委員会（FAO及びWHOが設置した合同委員会）が指標としている、年間線量1ミリシーベルトを踏まえるとともに、リスク評価機関である食品安全委員会による食品健康影響評価を受け、リスク管理機関である厚生労働省の薬事・食品衛生審議会等での議論を踏まえて設定している。なお、基準値を設定する際には、年齢にかかわらず、すべての方に安心して食品を食べていただけるよう、配慮している。

Q 5 自分自身で正確な情報を調べたいのですが、参考になるウェブサイトをお教えてください。

A 5 参考となるいくつかのウェブサイトをお知らせします。

●日本政府観光局（日本政府関連機関）「3.11地震后的日本旅游最新版」

http://www.jnto.go.jp/eq/chs/04_recovery.htm（簡体字）

●観光庁（日本政府）「让您安心游日本」

http://www.jnto.go.jp/eq/chs/kankocho_cs_1022.pdf（簡体字）

●福島県庁（地方政府）「福岛的复兴进程」（簡体字）

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/195453.pdf>

●復興庁（日本政府）公式ウェブサイト

<http://www.reconstruction.go.jp/english/topics/RR/index.html>（英語）

●外務省（日本政府）Brief overview of contaminated water leakage at the

TEPCO' s Fukushima Daiichi Nuclear Power Station and countermeasures

http://www.mofa.go.jp/policy/page3e_000071.html (英語)

- 原子力規制委員会（日本政府） 放射線モニタリング情報

<http://radioactivity.nsr.go.jp/en/> (英語)

- 国土交通省（日本政府）「東京湾周辺港の放射線輻射量検測状況」

http://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_fr1_000041.html (英語・簡体字)

- 福島県庁（地方政府） 空間線量モニタリング

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16025d/kukan-monitoring.html>

- 外務省（日本政府）福島第一原発事故対応 包括的情報レポート Provision of comprehensive information regarding the events and highlights on the progress related to recovery operations at Fukushima Daiichi Nuclear Power Station on the IAEA' s webpage

http://www.mofa.go.jp/dns/inec/page22e_000222.html (英語)

以上